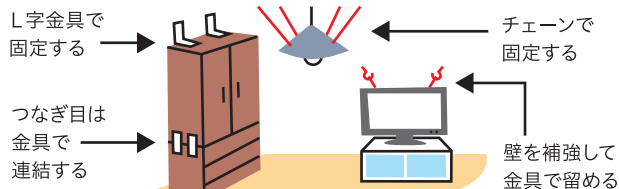


地震・津波

気象庁
地震情報気象庁
津波情報

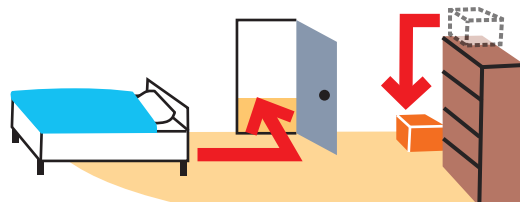
わが家の安全対策

家具が倒れないように固定しましょう



家具やテレビなどを固定し、転倒や落下を防止する。
寝ているときに怪我をしないよう、寝室は特に注意する。

家具の配置に注意しましょう



重たい物は高いところに置かず、床に置いておく。
扉をふさぐような配置をしない。

地震時における避難のポイント



地震はいつどこで起きるかわかりません。

大きな揺れを感じたり、身の回りに危険を感じたりしたら、迷わず行動してください！

地震発生

まずは自分の身を守る

- 机の下に入る。 ●クッションや雑誌などで頭を保護する。
- 家具やガラス面から離れる。



緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。震源に近い地域は、緊急地震速報が強い揺れに間に合わない場合があります。



こんなときは

● 人が大勢いる施設では

むやみに移動すると混乱をまねくおそれがあるため、係員の指示に従い、落ち着いて行動。

● 山やがけ付近では

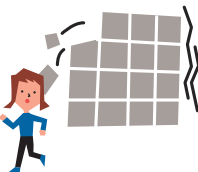
落石やがけ崩れに注意。



● 路上にいる！

窓ガラスや瓦などの落下物からカバンなどで頭を保護し、空き地や公園などに避難する。

注意 ブロック塀、自動販売機などには近づかない。倒れそうな電柱、垂れ下がった電線に注意する。



● 車を運転している！

ハザードランプを点灯させ、徐々にスピードを落とし道路の左側に止めエンジンを切る。がけや橋などの危険な場所にいる場合は、早く脱出する。

注意 避難するときはキーは付けたまま、ドアロックもしない。貴重品を持ち出し、徒歩で避難する。



● エレベーターの中にいる！

すべての階のボタンを押して、停止した階で降りる。

注意 閉じ込められても無理に脱出しようとせず、非常ボタンで外部と連絡をとり救出を待つ。

発生から
1~2分

揺れがおさまったらまず火の始末

- 火元を確認する。 ●靴をはく。 ●家族の安全を確保する。 ●脱出口を確保する。

発生から
3分

隣近所の安全確認・火災の発生を防ぐ

- 余震に注意。 ●電気のスイッチは触らない。 ●火をつけない。
- 非常持出品を用意する。 ●隣近所に声をかける。 ●近所に火が出ていたら初期消火。

発生から
5分

ラジオなどで正しい情報入手

- 正しい情報入手。 ●不要不急の電話は避け緊急連絡を優先。 ●ブレーカーを落とす。
- エレベーターは使わない。 ●家屋倒壊などの危険があれば避難。

発生から
10分~

協力して消火・救出・救護活動

- 壊れた家には入らない。 ●救助活動は一人ではなく複数で行う。
- 水・食料は蓄えているもので。 ●デマ情報にまどわされない。



海拔表示板

町内の避難所や電柱に設置している海拔表示板を目安に高い場所をめざしてください。



津波ハザードマップについて

最大クラスの津波が最悪条件下で発生した場合に想定される津波の浸水範囲と基準水位を地図上に示しています。

津波の特徴

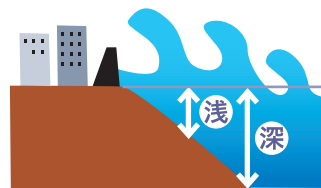
●ジェット機並みの速さ

津波の速さは海が深いほど速く、津波が見えてからでは逃げ切ることができません。



●想像以上の高さ

津波の高さは海岸の地形などで変わります。東日本大震災では、想像以上の高さの津波が発生しました。



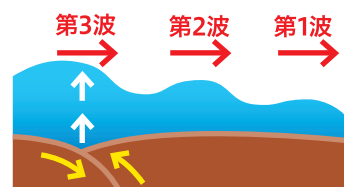
●予兆もなく襲ってくる

必ずしも、津波の前に予兆（引き潮）があるとは限りません。



●津波は繰り返す

津波は繰り返し来るので、警報や注意報が解除されるまで沿岸部に近づかないでください。



津波に関する警報・注意報

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報が気象庁から発表され、その後予想される津波の高さや津波の到着予想時刻などが発表されます。

	発表される津波の高さ		想定される被害
	数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の表現	
大津波警報	10m超(10m<予想高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。
	10m(5m<予想高さ≤10m)		
	5m(3m<予想高さ≤5m)		
津波警報	3m(1m<予想高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。
津波注意報	1m(20cm≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれます。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。

地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、気象庁が「津波予報(若干の海面変動)」を発表します。

津波災害時における避難のポイント

●小さな揺れでも油断禁物！

小さな揺れの地震でも、長い時間ゆっくりとした揺れの場合、津波が来襲することがあります。



●率先避難者になりましょう

率先避難とは「緊急時に周囲に避難を呼びかけつつ、自ら率先して避難すること」をいいます。率先避難者になることで、それを見ている周囲の人に避難行動をとらせるきっかけになります。



●高い場所へ避難する

海岸から「より遠くへ」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



●海岸や川には近づかない！

海岸はもちろん、津波は市街地よりも川を速くさかのぼりますので、できるだけ川に近づかず避難しましょう。興味本位で海や川を見に行かないでください。

